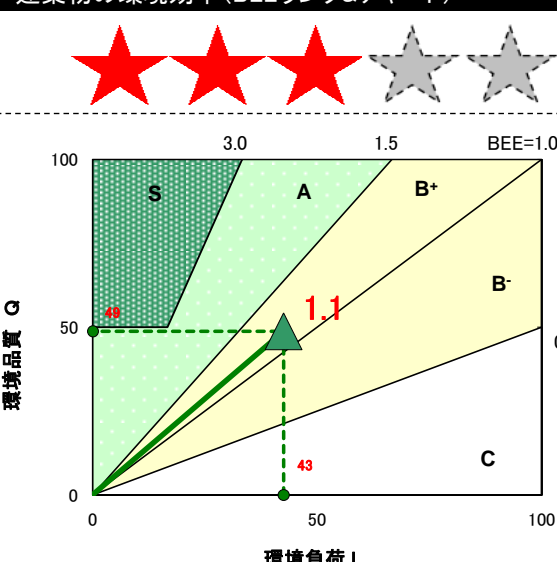


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	重心病棟・療育訓練棟	階数	地上3F		
建設地	熊本県合志市福原208番地	構造	S造		
用途地域	地域指定なし	平均居住人員	175 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年 12月 予定	評価の実施日	2018年10月1日		
敷地面積	104,683 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	1,786 m <sup>2</sup>	確認日			
延床面積	4,249 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.1

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★


### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)

排出率

89%

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	79.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	77.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	87.0

### ■ 重点事項総合評価

評価点

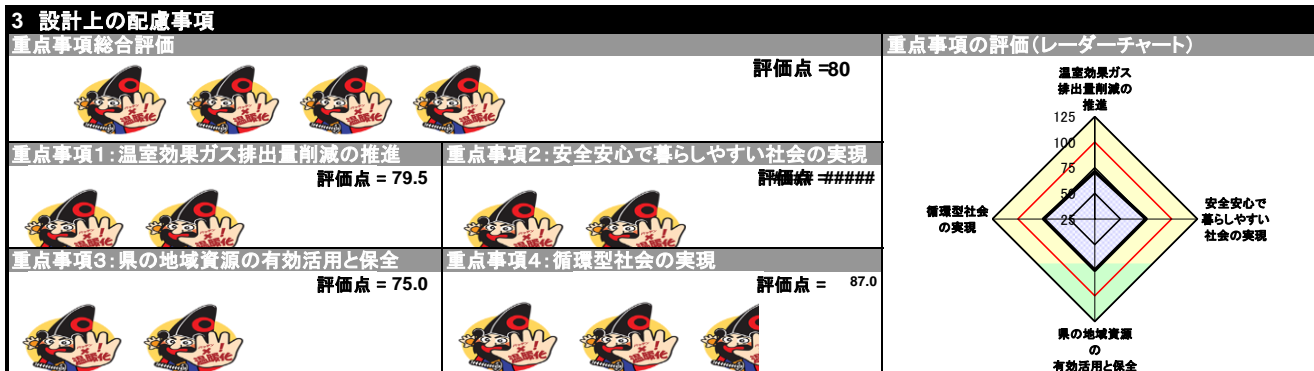
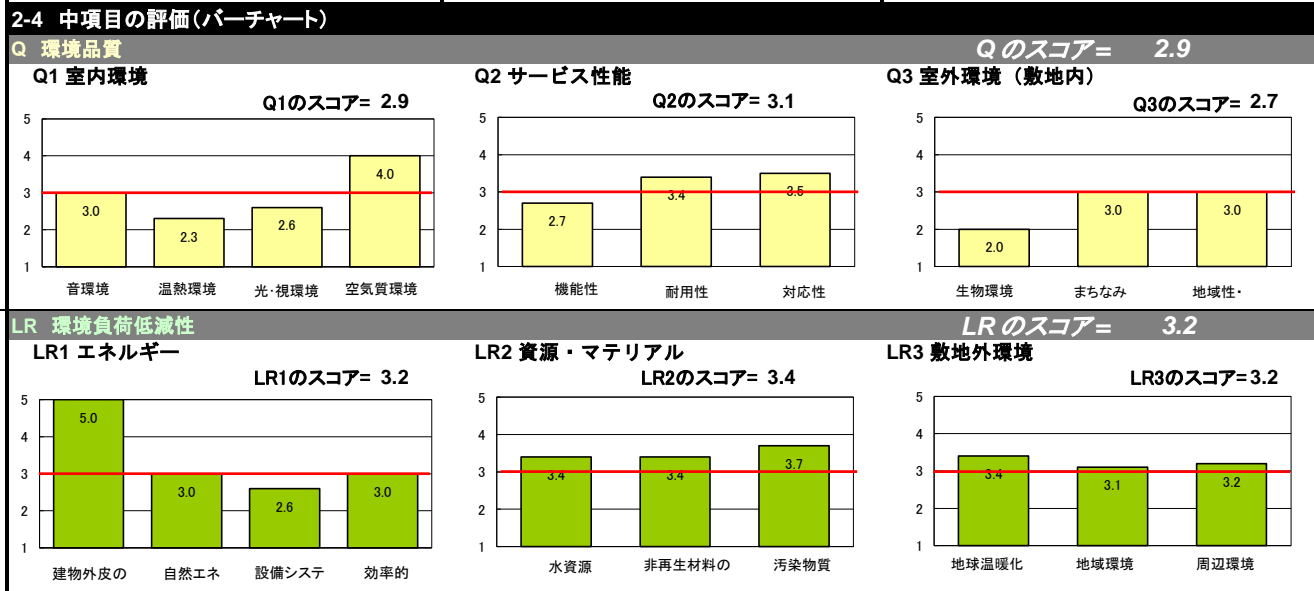
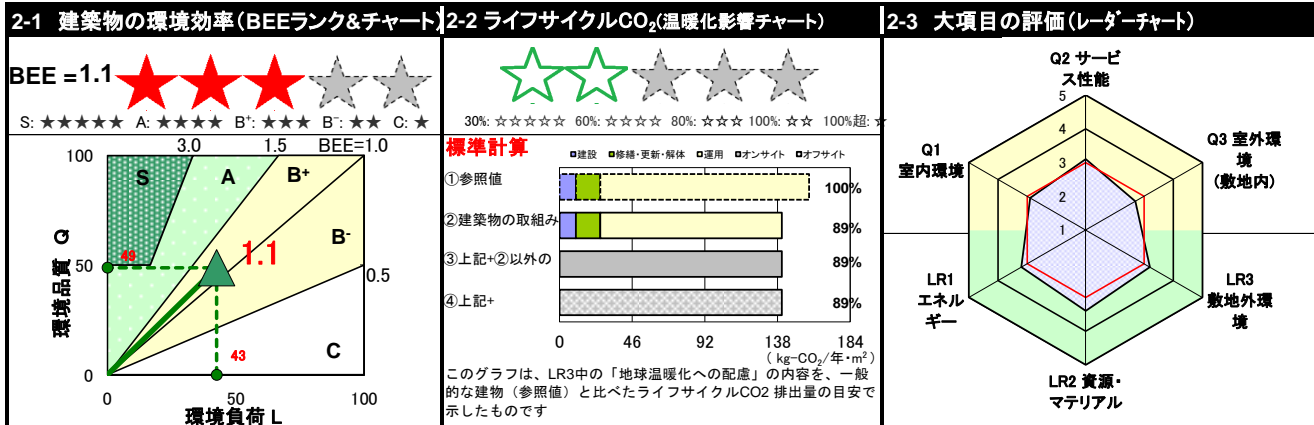
80

### ■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★★
60点以上80点未満	★★★★
40点以上60点未満	★★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	重心病棟・療育訓練棟	階数	地上3F
建設地	熊本県合志市福原208番地	構造	S造
用途地域	地域指定なし	平均居住人員	175 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年 12月 予定	評価の実施日	2018年10月1日
敷地面積	104,683 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,786 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	4,249 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

患者の安全・安心、スタッフの看護しやすい環境を重視した設計としている。

### Q1 室内環境

病室の昼光率は1.25%を確保するとともに、化学汚染物質の放散が極めて少ない、利用者の健康に配慮した計画としている。

### Q2 サービス性能

ゆとりある階高や維持管理しやすい仕上材、清掃用資材保管スペースの確保により機器の更新や維持管理のしやすさに配慮している。また、耐用年数の長い部材を採用している。

### Q3 室外環境（敷地内）

周辺の環境や建物に調和した外観計画としている。また、敷地内の空地や緑地面積の確保、設備機器の屋上配置により、緑量の十分な確保や暑熱環境の緩和に努めている。

### LR1 エネルギー

LED照明器具の採用による消費電力の低減に努めている。

### LR2 資源・マテリアル

節水型機器の採用により水資源の浪費を抑えた計画としている。

### LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO2や地域インフラへの負荷を抑制した計画とし、光害対策にも努めている。

### その他

特になし。

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**重心病棟・療育訓練棟**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-				<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00				<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音	天井:ロックウール化粧吸音板, 壁:グラスウール充填	<b>3.0</b>	0.20	<b>4.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.2</b>	0.35	<b>2.6</b>	1.00				<b>2.3</b>
2.1 室温制御		<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50				
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43				
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.6</b>	0.25	<b>2.7</b>	1.00				<b>2.6</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30				
1 昼光率	病室昼光率:約3.2%	1.0	0.60	5.0	0.60				
2 方位別開口			-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30				
1 昼光制御		3.0	1.00	<b>1.0</b>	1.00				
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.1</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00				<b>4.0</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆, 規制対象外、他のVOCは放散の極めて少ない建材	5.0	1.00	5.0	1.00				
4.2 換気		<b>2.0</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33				
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-		-				
2 喫煙の制御	建物内全面禁煙	5.0	1.00		-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-				<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.7</b>	0.40	<b>2.8</b>	1.00				<b>2.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60				
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	1.00				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-				
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40				
1 広さ感・景観	天井高2.6m	3.0	-	4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-		-				
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	床面は防汚性の高い建材、塗装、コーティングを採用している等	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保	清掃用資材を保管するスペースを計画している等	4.0	0.50		-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.4</b>	0.30		-				<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.8</b>	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	壁:石膏ボード30年, 床:ビニル床シート20年, 天井:ロックウール化粧吸音板30年	5.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP→B, 排水:VP→B, 消火:SGP(白)→C	4.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-				
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	<b>4.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	4.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>4.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>5.0</b>	0.20		-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>2.6</b>	0.50		-	<b>2.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング			3.0	-		-	
4.2 運用管理体制			3.0	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60		-	<b>3.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10		-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20		-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20		-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20		-	
再生クラッシュラン、ビニル床シート、断熱材、再生アスファルト			5.0	0.20		-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10		-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			4.0	0.20		-	
躯体+軽鉄+仕上材			4.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.4</b>	0.33		-	<b>3.4</b>
LCCO2排出率89%			3.4	0.33		-	
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			4.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
浸透井戸を使用			4.0	0.25		-	
適切な駐車スペースの確保			4.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			3.0	-		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	
光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たし、広告物照明設置なし			5.0	0.70		-	

建物名称 **重心病棟・療育訓練棟**

■評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点	
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				79.5	0.40	31.80	
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05				
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05				
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05				
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15				
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20				
LR1-3	設備システムの高効率化	2.6	0.30				
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10				
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10				
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				77.5	0.20	15.50	
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25				
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15				
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20				
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15				
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				75	0.20	15.00	
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20				
LR2-1.1	節水	4.0	0.30				
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20				
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30				
<b>④ 循環型社会の実現</b>				87	0.20	17.40	
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30				
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30				
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数